

<報道発表資料>

令和7年6月30日

京都市交通局企画総務部企画調査課

市バス・地下鉄のお客様数（令和6年度速報値）

- ◆ 市バス事業のお客様数は、前年度を上回るもののコロナ禍前には及ばず
- ◆ 地下鉄事業のお客様数、運賃収入は過去最高

【概要】

お客様の御利用状況は、定期（通勤）や定期外が増加し、年間を通じたお客様数は、両事業とも前年度を上回るものの、市バスはコロナ禍前（令和元年度）（以下、「コロナ禍前」という。）との比較において、▲5.3%となりました。一方、地下鉄は+0.1%と、コロナ禍前の水準を上回り、過去最高となりました。

運賃収入については、お客様数の回復に加え平均乗車単価の改善の効果もあり、両事業とも前年度を上回りました。コロナ禍前との比較においても、市バスで+3.6%、地下鉄で+1.9%となり、両事業ともコロナ禍前の水準を上回り、地下鉄については過去最高となりました。

<令和6年度の1日当たりのお客様数及び運賃収入（税抜）>

- ・市バス 「340千人/日」、「207億円」
- ・地下鉄 「402千人/日」、「263億円」
- ・両事業合計「742千人/日」、「470億円」

<前年度(令和5年度)比較>

- ・市バス 「+7千人(+2.0%)」、「+7億3千万円(+3.6%)」
- ・地下鉄 「+1万7千人(+4.3%)」、「+10億7千万円(+4.2%)」
- ・両事業合計「+2万3千人(+3.2%)」、「+17億9千万円(+4.0%)」

<新型コロナウイルス感染症の流行前である令和元年度比較>

- ・市バス 「▲1万9千人(▲5.3%)」、「+7億2千万円(+3.6%)」
- ・地下鉄 「+1千人(+0.1%)」、「+4億8千万円(+1.9%)」
- ・両事業合計「▲1万8千人(▲2.4%)」、「+12億0千万円(+2.6%)」

<市バス・地下鉄1日当たりのお客様数>

	令和元年度	令和5年度	令和6年度	R6/R5比	R6/R1比
市バス	35万7千人	33万3千人	34万0千人	+2.0%	▲5.3%
地下鉄	40万0千人	38万5千人	40万2千人	+4.3%	+0.1%
両事業合計	75万7千人	71万8千人	74万2千人	+3.2%	▲2.4%

（注）元年度比については、令和3年4月実施の「定期旅客数の計上方法の見直し」による影響等を補正しているため、表中の旅客数の差引及び減少率とは一致しません。

1 令和6年度のお客様の御利用状況

令和6年度の1日当たりのお客様数は、対前年度比で市バスが+7千人(+2.0%)、地下鉄が+1万7千人(+4.3%)となりました。

コロナ禍前との比較では、市バスは▲1万9千人(▲5.3%)とコロナ禍前まで戻らず、地下鉄は+1千人(+0.1%)とコロナ禍前の水準を上回り、過去最高となりました。

● 「定期外」のお客様数（1日当たり）

対前年度比では市バスが+7.1%、地下鉄が+6.3%、コロナ禍前との比較でも、市バスが+0.6%、地下鉄が+2.6%となり、両事業ともコロナ禍前の水準を上回りました。

● 「定期」のお客様数（1日当たり）

通勤定期については、対前年度比で市バスが+4.0%、地下鉄が+4.5%、コロナ禍前との比較でも、市バスが+2.3%、地下鉄が+2.7%となり、両事業ともコロナ禍前の水準を上回りました。

通学定期（大学）については、対前年度比で市バスが+7.7%、地下鉄が+4.7%となりましたが、通勤定期に比べて回復は鈍く、コロナ禍前との比較では、市バスが▲1.8%、地下鉄が▲1.9%となりました。

定期全体では、対前年度比で市バス、地下鉄ともに+4.2%、コロナ禍前との比較では、市バスが▲0.7%、地下鉄が+0.9%となり、地下鉄はコロナ禍前の水準を上回りました。

[市バス]

(注)内訳は主なものを記載

	令和元年度	令和5年度	令和6年度	R6/R5比	R6/R1比
市バス全体	35万7千人	33万3千人	34万0千人	+2.0%	▲5.3%
定期外	18万7千人	17万5千人	18万8千人	+7.1%	+0.6%
定期	9万6千人	9万3千人	9万7千人	+4.2%	▲0.7%
通勤	7万2千人	7万1千人	7万4千人	+4.0%	+2.3%
通学（大学）	1万7千人	1万6千人	1万7千人	+7.7%	▲1.8%

[地下鉄]

(注)内訳は主なものを記載

	令和元年度	令和5年度	令和6年度	R6/R5比	R6/R1比
地下鉄全体	40万0千人	38万5千人	40万2千人	+4.3%	+0.1%
定期外	20万8千人	20万1千人	21万4千人	+6.3%	+2.6%
定期	16万8千人	16万4千人	17万1千人	+4.2%	+0.9%
通勤	10万9千人	10万8千人	11万3千人	+4.5%	+2.7%
通学（大学）	4万0千人	3万8千人	4万0千人	+4.7%	▲1.9%

(注) 全体及び定期の元年度比については、令和3年4月実施の「定期旅客数の計上方法の見直し」による影響等を補正しているため、表中の旅客数の差引及び減少率とは一致しません。

≪各月のお客様数及び対元年度、対5年度の増減率≫

(単位：千人／日)

		市バス			地下鉄			両事業	
		R6/R5比	R6/R1比		R6/R5比	R6/R1比		R6/R5比	R6/R1比
4月	361	+6.5%	▲12.2%	409	+8.1%	▲2.1%	769	+7.4%	▲6.9%
5月	348	+2.9%	▲6.1%	423	+6.9%	▲1.0%	771	+5.1%	▲3.4%
6月	339	+1.3%	▲6.8%	415	+6.0%	▲0.6%	754	+3.8%	▲3.5%
7月	340	+2.3%	▲7.6%	417	+5.0%	▲3.3%	757	+3.8%	▲5.3%
8月	319	+2.0%	▲9.8%	374	+4.2%	▲5.9%	692	+3.2%	▲7.8%
9月	336	▲1.5%	▲13.0%	374	+2.6%	▲11.0%	710	+0.6%	▲12.0%
10月	356	+4.4%	▲3.4%	418	+4.1%	+2.8%	774	+4.3%	▲0.2%
11月	370	+1.7%	▲6.4%	441	+2.7%	▲2.2%	810	+2.2%	▲4.2%
12月	338	+3.4%	▲4.6%	414	+3.6%	+1.6%	753	+3.5%	▲1.3%
1月	308	+1.6%	▲9.4%	370	+4.5%	▲3.6%	678	+3.2%	▲6.3%
2月	326	+0.1%	注 ▲8.1%	385	+2.7%	注 ▲2.2%	712	+1.5%	注 ▲5.1%
3月	334	▲1.4%	注 ▲7.0%	385	+1.3%	注 ▲0.1%	719	+0.0%	注 ▲3.5%
年平均	340	+2.0%	▲5.3%	402	+4.3%	+0.1%	742	+3.2%	▲2.4%

(注) 令和元年度の2月、3月は新型コロナの影響があったため平成30年度比を記載

2 令和6年度の運賃収入

(単位：百万円【税抜】)

	令和元年度	令和5年度	令和6年度	令和5年度対比		令和元年度対比	
				増減額	増減率	増減額	増減率
市バス	20,015	20,009	20,735	726	+3.6%	720	+3.6%
地下鉄	25,778	25,194	26,260	1,067	+4.2%	482	+1.9%
両事業合計	45,793	45,203	46,995	1,792	+4.0%	1,202	+2.6%

- 運賃収入については、お客様数の回復に加え平均乗車単価の改善の効果もあり、対前年度比で市バスが+7億26百万円(+3.6%)、地下鉄が+10億67百万円(+4.2%)、コロナ禍前比較でも、市バスが+7億20百万円(+3.6%)、地下鉄が+4億82百万円(+1.9%)と両事業ともコロナ禍前の水準を上回り、地下鉄については過去最高となりました。

<お問合せ先>

京都市交通局企画総務部企画調査課

電話：075-863-5094

参考 1日当たりのお客様数の推移とコロナ禍前との減少率

